

株式会社 村岡総本舗

住 所：小城市小城町 861
T E L：0952-37-3173 F A X：0952-37-3191
E-mail：info@muraoka-sohonpo.co.jp
担 当：代表世話人 村岡 安廣

【活動事例】

- ①村岡総本舗本店及び村岡総本舗羊羹資料館を中心とする羊羹と伝統菓子文化の情報提供、受発信。近年は韓国・台湾からの団体等海外からの視察も増えている。
- ②村岡総本舗羊羹資料館において小中学生の社会科見学の受け入れ、印刷物、冊子、SNS などによる情報発信。
- ③佐賀県企業メセナ協議会代表世話人を務める社長村岡安廣によるメセナ活動 および各種講演、シンポジウム参加、著書の発行等。
- ④各種メディア取材対応
- ⑤「佐賀マイスター」による羊羹講習

【内 容】

- ①村岡総本舗本店及び村岡総本舗羊羹資料館（昭和16年建築の砂糖蔵を、昭和59年改装し開館）は平成17年「佐賀県が残す22世紀遺産」に指定された。また村岡総本舗羊羹資料館は平成9年国の有形登録文化財となっている。令和4年3月3日文化庁は食文化ミュージアム70を発表。その中に村岡総本舗羊羹資料館の認定が示された。これを記念し、同年11月より「伝統菓子の原料と伝統包装展」を開催。令和5年11月より令和6年10月まで、「現代製法の小城羊羹～羊のパッケージの秘密～」と「鈴田先生型絵染カレンダー」の展示を行っている。村岡総本舗の伝統製法の小城羊羹が一般財団法人食品産業センターより平成27年1月、「本場の本物」に認定される。また令和2年6月19日に「砂糖文化を広めた長崎街道～シュガーロード～」が日本遺産に認定され、村岡総本舗本店、村岡総本舗羊羹資料館、小城羊羹も構成遺産として認定された。これらの施設は羊羹をはじめとした地域文化の象徴であり、ランドマークともなっていて、運営管理保全していく役割を担っている。
創業当時の明治期から使用された、また令和の現在でも使用し続けている羊羹製造諸道具や原材料、レッテル（ラベル）はじめ、羊羹・菓子に関する資料展示、外国製羊羹の展示そして小城と村岡総本舗の歴史のビデオ放映。入館無料、羊羹試食とお茶の無料サービス。「村岡総本舗羊羹資料館案内」（135頁）の販売。
平成27年5月、イタリア・ミラノ国際博覧会に「本場の本物」の一員として伝統製法の小城羊羹を出展。経済産業省の後援により開かれた「羊羹コレクション」に出展する（平成28年3月パリ、平成29年10月シンガポール、令和元年11月ニューヨーク）。平成28年11月より毎年開かれている小城市と小城羊羹協同組合共催の「日本一ようかん祭り！」に出店。
- ②小・中学生の社会科見学の受け入れ。小中学生の「職場体験学習」や公務員の短期実習の受け入れ。ホームページ、SNS、メールマガジンなどによる情報発信。
- ③村岡社長によるメセナネットワークの運営参加およびメセナ活動、また各種機関団体依頼の講演、シンポジウム参加、「村岡安吉伝」「肥前の菓子ーシュガーロード長崎街道に行く」等出版物発行。小城市民交流プラザゆめぷらっと小城にて平成29年6月より平成30年5月まで、村岡安廣社長による「羊羹のおいしさ講座」開催。令和4年1月23日、2月20日に「伝統菓子とシュガーロード」シンポジウムが小城市と大村市で開かれ、村岡安廣社長が基調講演とパネルディスカッションのコーディネーターを務める。令和5年2月1日東京ドームで開催の「テーブルウェアフェスティバル」アリーナ特設ステージにおいて「日本遺産 シュガーロードと伝統菓子」の題名で講演。
- ④テレビをはじめ新聞、ラジオ、専門誌、情報誌に至るまで各種メディア取材を受け、村岡総本舗と村岡総本舗羊羹資料館、小城羊羹、シュガーロード等についての情報提供。また、Facebook、YouTube、Instagram、X（旧ツイッター）による情報発信も行っている。
- ⑤佐賀県より「佐賀マイスター」に認定された萩原隆文小城工場係長（平成23年認定）による佐賀県内の小・中学校生を対象とした「羊羹づくり体験教室」年に数回実施。